

# 第1章 志教育支援事業（推進地区指定）の取組

## ◇ 加美町立小野田中学校区

1	推進の概要 .....	1
2	おのだの志教育の推進全体構想図 .....	4
3	実践の成果と今後の課題 .....	5
	【事例1】小野田中学校区第1回小・中・高交流会 .....	7
	【事例2】小野田中学校 地域体験学習 .....	9

## ◇ 推進校における「第3章 志教育実践事例」との関連（掲載ページ）

- ・ 鹿原小学校（P35）

# 志教育支援事業「小野田中学校区」の取組

小野田中学校区連絡協議会

## 1 推進の概要

### (1) 志教育支援事業の趣旨

高度情報化や経済活動のグローバル化の一層の進展により、これからの社会は、これまで以上に変化の激しいものになることが見込まれる。そうした変化の中でたくましく生き抜いていけるよう、必要な知識・技能を確実に身に付けるとともに、自らの適性を的確に把握し、社会の中で自らが果たすべき役割を将来にわたって展望し、その実現に向けて強い意志をもって自律的に行動できる人づくりを進めることが求められる。

そこで、小・中・高等学校の全時期を通じて、人や社会とかかわる中で社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えさせながら、将来の社会人としてのよりよい生き方を主体的に求めさせていく志教育を推進し、県内各小・中・高等学校及び特別支援学校に普及する。（宮城県教育委員会「志教育支援事業実施要項」）

### (2) 指定期間 平成25年4月1日から平成26年3月31日まで（1年間）

### (3) 具体的な事業内容

- ① 推進地区連絡協議会の設置及び運営
- ② 家庭及び地域、小・中・高等学校との連携した事業の検討と実施
- ③ 各校種別の年間計画に基づいた事業の実施
- ④ 各教科・領域等における授業の実践
- ⑤ 講演会等の実施
- ⑥ 事例発表会の実施
- ⑦ 事例報告書の作成

### (4) 小野田中学校区の概要

小野田中学校区は加美町の西部に位置し、町のシンボルである薬菜山がそびえ、東西に鳴瀬川が流れており、豊かな自然を形づくっている。

地区内には、認定こども園が2園、小学校3校、中学校1校、地区外の町内には県立高等学校が1校ある。

加美町では、ALTを小・中合わせて6人を配置するなど、外国語活動に力を入れている。その原点になったのが小野田中学校区であり、英語活動に取り組んだ歴史も古い。また、園・小・中・高校の相互の連携にも積極的である。小学校間では合同の花山野外活動や給食時の交流会などの実施、小・中学校間では小学6年生を対象に中学校体験会を開き、生徒が主体となって部活動体験をはじめとする中学校生活の体験会を実施してきた。さらに、園・小、小・中、中・高では、教職員が相互に訪問して授業を参観し、課題や指導法の工夫などをテーマに話し合いを進めてきた。

志教育については、平成24・25年度の2年間、小野田中学校区が宮城県教育委員会より志教育支援事業の推進地区指定を受け、これまでの活動を志教育の3つの視点から見直し、改善・活性化を図り、児童生徒の変容や校種を越えた教職員の交流が深まるなどの成果が得られた。今後は志教育に対する教職員の理解を尚一層深め、児童生徒の発達の段階に応じた指導・支援の在り方を工夫していくことや地域の人材や

施設，文化を活かした志教育の推進が求められている。

#### (5) 小野田中学校区の志教育の推進目標

小・中・高等学校の連携のよりよい在り方を志教育の視点から探り，これまでの交流活動を改善・活性化させることによって小野田中学校区の志教育を推進し，児童・生徒が社会人としてよりよく生きる力を高める。

#### (6) 小野田中学校区の志教育の取組方針

- ① 宮城県教育振興基本計画及び宮城県震災復興計画に基づき，復興を支える人材の育成も視野に入れ，志教育に係る取組を推進する。
- ② 各推進校との共通理解のもとに，各校における「志教育」の連携を図り，児童・生徒の発達の段階に応じた系統的・継続的な志教育の在り方を工夫する。
- ③ 家庭・地域住民への「志教育」に対する理解を深めるための啓発活動を行う。

#### (7) 本年度の特色

昨年度は志教育支援事業の推進地区の指定を受けて，これまでの活動を志教育の3つの視点から見直し，改善・活性化を図った結果，児童・生徒の変容や校種を越えた教職員の交流が深まるなどの成果が得られた。また，課題として教職員及び地域との尚一層の連携が求められている。

今年度は，昨年度の成果と課題を踏まえ，次のような事業の展開を図っている。

- ① 小野田中学校区連絡協議会への認定こども園及び地域住民代表者の参画
- ② 新たな連携事業の実施
  - i 「PTA」，「小野田地区町民会議」などの関係団体との連携
  - ii 小学校の「外国語活動」と中学校の「外国語」の連携
  - iii 小学校3校の合同行事（「薬菜登山」：3小学校3年生）
- ③ これまでの事業の充実
  - i 平成25年度版リーフレットの作成と小野田地区全戸への配布
  - ii 交流事業の深まり（中学1年生と小学6年生の手紙の交換）
  - iii 「人材リスト」，「年間交流活動表」の充実

#### (8) 目指す児童生徒の姿

小野田中学校区の志教育が目指しているのは，「児童・生徒の社会人としてよりよく生きる力を高める」ことであり，その具体的な姿を地域の象徴である「薬菜山」になぞらえて次のようにとらえる。

小野田の志教育が目指すものは・・・

社会人としてよりよく生きる力を高める

薬菜山のような人になってほしい

- ◇ 小野田地区のどこからでも望むことができ 分けへだてなく平等  
→ 思いやりがあり 誰からも愛される人に
- ◇ 豊かな自然 その恵みを求め人々が集まる  
→ 自分のよさを大切にし 魅力ある人に
- ◇ 大地に根ざし しっかり独り立ちしている  
→ 自らの志を抱き 自信をもてる人に

## (9) 実践内容

- ① 連携行事
  - i 小・中・高交流会（小野田中学校区全学級の授業参観及び志教育に関する研修会）
  - ii 3年合同薬菜登山（3小学校3年生による合同登山）
  - iii 5年合同花山野外活動（3小学校5年生による一部合同にした活動）
  - iv 小・中英語活動交流会（3小学校6年生と中学生の合同の英語活動）
- ② 推進地区啓発活動
  - i 事例発表会の実施（各校での体験学習，職場体験等の情報の共有）
  - ii 取組を紹介するリーフレットの作成および小野田地区全戸への配布
  - iii 連携行事の紹介と案内状配布（学校だよりでの紹介，事例発表会への案内）
- ③ 教職員間連携
  - i 人材リストの作成（各校での体験学習，職場体験等の講師の情報の共有）
  - ii 志教育年間交流活動表の作成（各校及び各校間の交流活動を表にしたもの）
- ④ 児童生徒の変容の見取り
  - i 児童生徒の取り組み姿や感想の累積（資料・本事業の評価，改善）

## (10) 主な実施経過と今後の予定

年 月 日	実 施 内 容	
平成25年	4月25日	第1回宮城県志教育支援事業推進会議
	5月16日	小野田中学校区推進地区連絡協議会（準備会）
	5月23日	第1回北部管内大崎地区推進地区連絡協議会
	6月 3日	3年合同薬菜登山（3小学校）
	6月 4日	花山野外活動事前交流会（3小学校5年生）
	6月 5日	第1回小・中・高交流会
	6月10日	5年合同花山野外活動（3小学校）
	～12日	
	7月 4日	第1回小野田中学校区連絡協議会
	7月29日	第1回小野田中学校区担当者会議
	8月 1日	小野田中学校区英語活動担当者会議
	8月 2日	第2回北部管内大崎地区推進地区連絡協議会
	8月 8日	第2回宮城県志教育支援事業推進会議
	8月20日	第2回小野田中学校区連絡協議会
	10月 7日	第3回小野田中学校区連絡協議会
	11月14日	第2回小野田中学校区担当者会議
	11月20日	志教育リーフレット全戸配布（小野田中学校区）
	11月21日	第2回小・中・高交流会，事例発表会
	12月18日	小野田中学校区小・中英語活動交流会
平成26年	1月15日	第4回小野田中学校区連絡協議会
	1月23日	第3回北部管内大崎地区推進地区連絡協議会
	2月 5日	第3回宮城県志教育支援事業推進会議

2 おのだの志教育の推進全体構想図

社会人としてよりよく生きる力の育成

みやぎの志教育

小・中・高等学校の全時期を通じて、人や社会とかかわる中で社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えさせながら、将来の社会人としてのよりよい生き方を主体的に求めさせていく教育

【よりよく生きる力の高まった児童生徒】

薬菜山のような人になってほしい

- ◇どこからでも望むことができ 分けへだてなく平等  
→ **思いやりがあり 誰からも愛される人**
- ◇豊かな自然 その恵みを求め人々が集まる  
→ **自分のよさを大切にし 魅力ある人**
- ◇大地に根ざし しっかり独り立ちしている  
→ **自らの志を抱き 自信をもてる人**

加美町教育基本方針

- やさしさとたくましさ  
を培う家庭・園・学校  
教育の推進
- 学びと協働の心に満ち  
た活力ある地域社会づ  
くり
- 地域に根ざしたかおり  
高い芸術文化の創造
- 喜びや健康を実感する  
生涯スポーツの振興

小野田中学校区の志教育の推進目標

小・中・高等学校の連携のよりよい在り方を志教育の視点から探り、交流活動を改善・活性化させることによって小野田地区の志教育を推進し、児童・生徒が社会人としてよりよく生きる力を高める。

小野田中学校区の志教育の取組方針

- (1) 宮城県教育振興基本計画及び宮城県震災復興計画に基づき、復興を支える人材の育成も視野に入れ、志教育に係る取組を推進する。
- (2) 各校との共通理解のもとに、各校における「志教育」の連携を図り、児童生徒の発達の段階に応じた系統的・継続的な志教育の在り方を工夫する。
- (3) 家庭・地域住民への「志教育」に対する理解を深めるための啓発活動を行う。

交流を深め自分の夢を広げる

小野田中学校 ↔ 中新田高等学校

小・中・高等学校間の連携・協力

東小野田小学校 ↔ 西小野田小学校 ↔ 鹿原小学校

小学校間の連携・協力

志教育  
3つの視点

- 人と「かかわる」
- よりよい生き方を「もとめる」
- 社会での役割を「はたす」

各学校での  
志教育の取組

小・中・高交流会

小・中英語活動  
交流会

5年合同  
花山野外活動

3年合同  
薬菜登山

教職員の連携

- ・志教育研修会
- ・人材リスト作成
- ・志教育年間交流活動表作成

家庭・地域・認定こども園との連携・協力

### 3 実践の成果と今後の課題

#### (1) 実践の成果

##### ① 自信をもって話すきっかけをつくる交流活動

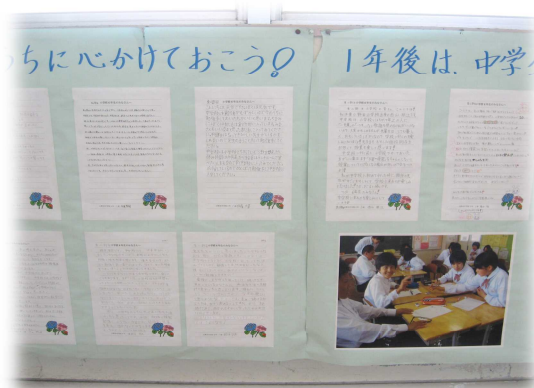
交流に向けての事前の指導を通して、一人一人が自分を見つめ、自分の夢や思いを考えることができている。また交流会では、慣れない環境での活動ではあったが、緊張感のある雰囲気の中でも自分の考えを发表或し、意思表示をしたりするなど自己表現力が鍛えられた。また、それと同時に他の学校の人の話や考えを聞くことで、自分の夢や思いを構築するのにより参考となっていた。これは、それぞれの学級あるいは学校だけでは経験し難いものである。狭い人間関係の中だけではやはり限界があり、そこで満足してしまいがちなのが小野田地区の児童・生徒の課題でもあるが、それを克服していく上でよいきっかけを与えることができた。

##### ② 意義や目的を明確にする交流活動の見直し

小・中・高等学校を通した志教育を推進するために、昨年度より既存の交流活動を志教育の視点から見直し、再構築することでこれまで実践を積み重ねてきた。その活動の中で、行事の意義や目的、指導のポイントが明確になった。ただ単に一過性の交流で終わらせず次の活動に発展できるものになり、児童・生徒の夢の深まりと広がりにつながった。

今年度は新たに小学校3年生による「合同葉菜登山」そして「小・中英語活動交流会」が加わり、中学年での小学校間の交流と、小・中学校の教科での交流が計画されている。また、1回目の小・中・高交流会の中学1年生の参観授業では、小学校6年生への手紙を書く活動が行われた。後日その手紙を読んだ小学校6年生から中学1年生へお礼の手紙が送られ、交流活動の広がりも見られた。

さらに、今年度は昨年度の事例発表会に参加した保護者からの提案で、PTAの活動目標や小野田地区町民会議の活動目標に志教育が位置付けられ、志教育を意識したPTA活動（学年PTC行事やPTA主催による講演会等）が企画運営されている。学校主導で行われてきた志教育支援事業が地域や家庭にも浸透しつつある状況になってきている。



##### ③ 交流活動を一層充実させる教職員の「顔が見える連携」

連携行事を行う上で、担当者同士が綿密に打合せを行うことは不可欠である。連絡協議会での会議はもちろん、教務主任や志教育担当教諭の打合せ、担任同士の連絡など、学校間・校種間を越えて数多く連絡を取り合った。お互いの顔が見え、膝を交えて話し合いを行うことで、作業がスムーズに流れるようになった。連携行事を行うには時間と労力を費やすことが多いが、児童生徒に貴重な体験をさせられるだけでなく、我々教職員の交流も有意義なものになってくる。児童生徒の交流を促進し実のあるものにするためには、教職員が自らまず外に飛び出し「顔が見える連携」をすることが必要である。また、体験学習人材リストや志教育年間交流活動表は、教職員間の情報交換を行う上で貴重な資料となっている。

## (2) 今後の課題

### ① 志教育指導計画の共有化による発達の段階に応じた指導

志教育の視点で行ってきた交流活動だが、今年度は昨年度の反省を加えて見直しを図ってきた。それにより新たな活動が計画された。今後も継続していくためには、児童・生徒、教職員が無理のない範囲で行うことができ、より効果的にかつ持続可能な交流にしていく必要がある。そのためにも、小・中・高等学校で志教育指導計画の共有化を図り、児童生徒の発達の段階に応じた指導・支援の在り方を工夫していかなければならない。

### ② 積極的な情報発信と地域の人材活用

今年度は保護者・地域に対して志教育への理解と協力を促すために、リーフレットを作成して配布したり、各行事の開催をお知らせしたりしたが、志教育はまだ十分に浸透しているとはいえない。保護者・地域への啓発を一層促進するために、積極的に情報発信を行うとともに、地域との連携を深める地域の人材活用なども進め、地域と共に成長する魅力ある「おのだの志教育」を目指していきたい。



【事例1】

## 小野田中学校区第1回小・中・高交流会 (授業参観及び研修会)

### (1) 実践の概要

#### ① ねらい

小野田中学校区の認定こども園と各小学校及び中学校，そして連携する中新田高校の教員が一同に会し，中学校の授業を参観することによって，今後の志教育を推進する上での連携の在り方を考える一助とする。

志教育の先進地区から講師を招き，志教育について深く理解し，これまでの取組を客観的に見つめ直す機会とする。

#### ② 期日 平成25年6月5日(水曜日)



1年2組 学級活動



2年1組 社会



2年2組 保健体育



3年生 総合的な学習の時間

#### ③ 授業内容(13時40分～14時30分)

1年生 学級活動「2年後の自分をイメージしながら，よりよい学校生活を送ろう」指導者 教諭 太田 明子 教諭 上埜 豪

2年1組 社会 「世界のすがた」指導者 教諭 高橋 亮

2年2組 保健体育 「バレーボール」指導者 教諭 中鉢 秀一

3年生 総合的な学習の時間 「修学旅行研修報告」指導者 教諭 福田靖洋

#### ④ 研修会(14時50分～16時10分)

ア 演題 「よりよい生き方を主体的に探求させる志教育の推進」

イ 講師 栗原市立若柳中学校 教諭 加藤純一 先生  
平成23・24年度志教育支援事業「若柳中学校区」推進地区指定，  
平成24年度宮城県研修センター専門研究員

#### ウ 内容

○ 志教育の3つの柱として「かかわる・もとめる・はたす」があるが，「かかわる」は「社会性」，「もとめる」は「主体性」，「はたす」は「責任感」であり，これら3つが相互に関係し合うことで，充実した活動が行われる。また，特別活動と総合的な学習の時間の活動は，それぞれが独立した活動として考えるのではなく，相互にかかわりを持たせるべきである。



- 志教育の進め方としては、次の4つのステップを考えた。まず、ステップ1として「実態・把握」。これは実態を把握し、今後の方針を決定するためのものである。ステップ2として「組織づくり」。これはリーダーを育成するためのものであり、目標を確認し、活動の意義を確かめるものである。次にステップ3として、「指導・支援」。最後にステップ4として「評価・改善」。このステップ1からステップ4までが繰り返されることによって、よりよい活動が行われ、活動の高まりが見られた。
- 中・高連携の取組として、迫桜高校との部活動交流会を通して、「あのような先輩になりたい」と目標を持つ生徒が増えた。また、「つながることから、つなげること」として、職業人からの話を直接に聞くことで、これから自分が何をすべきか考えさせる、学びの時間となった。
- 志教育の視点で意識して授業を見直し、学び合いを取り入れた授業が大切である。

#### ⑤ 参加者の感想

- どの学年の生徒も素直で、しっかり取り組んでいる姿が印象的でした。日頃の先生方の指導の積み重ねが感じられました。とても立派な生徒さんたちです。機会があったら、教科の指導ももっと参観させていただければと思いました。(小学校教員)
- 先生方が授業内容を工夫され、生徒たちがいかに興味を持って取り組むかを配慮している様子が良く分かりました。生徒たちも意欲的に取り組み、楽しい中もしっかり学んでいるようでした。普段小さい子供たちしか見ていないので、7～8年後にはこのようにたくましくなるのだなぁと感心して参観させていただきました。(認定こども園教員)
- 1年の学級活動を参観させていただきました。「小学校と中学校の違いをどのように感じているのか」から「中総体等で活躍する3年生の先輩を見て、2年後の自分のなりたい姿をどのように思っているのか」等、一人一人がじっくり考えているのが良かった。グループでの意見交換も自分の思いをまとめるのにとても良かった。この子たちが3年生になった時の姿が楽しみです。(小学校教員)

#### (2) 成果と課題



**成果** 授業参観を通して、認定こども園・小学校・高等学校の教員が中学校の様子を知るよい機会となり、各校種で児童・生徒の発達の段階に応じた計画的・継続的な指導を行うための参考となった。

後半の研修会では、先進地区の具体的な取組と課題を知ることで、本地区の実態に合った志教育の在り方を考えることができた。

**課題** 校種間、教員間、児童・生徒間の交流をそれぞれの実態に応じた内容を考えるとともに、目的に合った活動の在り方を工夫していきたい。

授業や教育活動を志教育の3つの視点に立って見直し、本校の生徒の実態に合った指導方法を取り入れていきたい。

【事例2】

<p>学校名 加美町立小野田中学校</p>	<p>学年・教科等 3年 総合的な学習の時間</p>
<p>&lt;活動名&gt; 地域体験学習</p>	<p>&lt;実施日&gt; 7月4日～11月7日</p>
<p>&lt;志教育の視点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小野田地区の生活に根ざした体験活動を通して、地域の方とかがわりながら、地域のよさを理解する。(かかわる)</li> <li>・自ら課題を見付け、意欲的に課題解決に取り組ませる。(もとめる)</li> <li>・将来に向けての目標と課題を持ち、自分の役割を考える。(はたす)</li> </ul>	
<p>&lt;実践の概要&gt;</p> <p>1 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コース別ガイダンスとコース選択，個人毎の課題設定</li> <li>・コース別オリエンテーション</li> <li>・コース毎の体験学習（9回）</li> <li>・文化祭での発表</li> <li>・自己評価，振り返り，御礼状作成</li> </ul> <p>2 各コースの内容（5コース）</p> <p>(1)和太鼓コース（図1）</p> <p>和太鼓コースでは，10月の文化祭での発表に向けて活動を行った。初めは，ほとんどの生徒がすぐに太鼓を叩けるものと思っていたようだったが，柔軟体操や手首を柔らかくする運動を行うことに驚いていた。太鼓を使った練習では，生徒たちは真剣な眼差しで，講師の指導に耳を傾けていた。</p>  <p>図1 和太鼓コース</p> <p>(2)カヌーコース（図2）</p> <p>最初の活動では，バランスを崩して何度もひっくり返ってしまう生徒もいたが，段々その回数も減り，上手に漕げるようになった。1回目から上手に乗れた生徒は，講師からターンの仕方を教わり，レベルの高い乗り方に挑戦していた。また，カヌーが転覆したときに水中で抜け出す方法も教えていただき，友達同士でカヌーを転覆させ，抜け出す練習を楽しそうに行っていた。</p>  <p>図2 カヌーコース</p>	

### (3) ゴルフコース (図3)

ほとんどの生徒がゴルフが初めてのため、最初はクラブの握り方や構え方などの基本から教わった。実際にボールを打つ練習を行ったが、なかなかボールが前に飛ばない生徒もいたため、講師のアドバイスを基に、技術を身に付けていた。最終的には、実際にコースに出てプレーできることを目標に、生徒たちは意欲的にゴルフについて学んでいた。



図3 ゴルフコース

### (4) 料理コース (図4)

地元の食材を生かしたポテトサラダやカボチャスープ、手打ちそばなどを調理した。友達と協力しながら準備したり、調理や後片付けもしっかりと行っていた。作った料理は、自分たちで試食するだけでなく、先生方にも試食していただき、どの料理もとても好評だった。



図4 料理コース

### (5) 着付けコース (図5)

背筋を伸ばして、心を込めた辞儀から学習が始まった。緊張感のある雰囲気の中、講師の手順を熱心に見ながら、浴衣の着付けに挑戦した。1回目は講師が付きっきりで、帯を結ぶところまで1時間かかった生徒たちも、回数を重ねるうちに、一人で手際よく着ることができるようになった。また、着物のたたみ方や立ち振る舞いについても教えていただき、自信を持って着付けをすることができるようになった。



図5 着付けコース

## <成果と課題>

### 成果

体験活動を通して、地域の伝統文化や生涯スポーツの大切さと地域のよさを知ることができた。そして、地域の伝統文化を守り、継承していくための意欲が高まった。

### 課題

地域の講師の高齢化等による人材の確保と、新たな地域の特色ある体験コースの設定が課題である。それに伴い、活動場所の確保や交通手段などの環境整備も必要となる。